

原 著

# エンゼルメイクの技術の見直しと実施から得られた 看護師の意識変化

川羽郡総合病院、西6病棟；看護師

水島美由紀、菅原美奈子、徳間 幸子、今成 歩美

目的：勉強会を通して得た知識が看護師に浸透すると共に、エンゼルメイクの技術の見直しを図り1年間の実施から得られた看護師の意識の変化を分析する。

方法：エンゼルメイクについての意識調査を参考にメイク道具の検討・見直しを図り勉強会を実施。その後、1年間に亡くなられた患者様97名に新エンゼルメイクを実施した後に再度看護師に意識調査を行い比較・検討する。

結果・結論：メイクボックスの改善を図り、マニュアル作成と勉強会は有効であった。看護師がメイクに対して様々な工夫をこらしており、自信を持ち意欲も高まっていった。エンゼルメイクの技術を見直しその後の実施の様子から、ほとんどの看護師に知識が浸透出来た。また、エンゼルメイクは、避けることの出来ない看護行為であり、御家族の悲しみを癒す重要なケアである。

キーワード：エンゼルメイク、化粧粧、手技の改良、グリーフケア、癌・終末期患者

## 緒 言

癌・終末期患者の看取りでは、悪液質などによるるいそうや、肝不全による黄疸などで顔貌や顔色などに変化をもたらしていることが多い。そのような場合、メイクによる工夫をすることで穏やかさを表すことが可能であるが、看護師の捉え方や知識の相違により、メイク方法も異なっていた。又、物品の不備がある為に工夫したくても出来ないことが解った。そこで、エンゼルメイク一連の過程を把握する必要があると考え、研究会での学びを基に従来のエンゼルメイクの技術を見直し、新たなメイク方法を提供することで看護師のモチベーションの向上にもつながったので報告する。

## 用語の定義

ここで述べる新エンゼルメイクとは、従来のエンゼルメイクの技術を見直した後のメイク方法を言う。

## 対象と方法

対象：病棟看護師（新エンゼルメイク実施前25名 新エンゼルメイク実施後22名）

期間：平成18年7月～平成20年6月

方法：1. ホスピスケア研究会参加（ケアとしての化粧粧）

2. 新エンゼルメイク実施前意識調査

3. メイク道具の検討・見直し、及び新エンゼルメイクの勉強会資料（図1）・マニュアルを作成

4. 病棟看護師を対象に勉強会を実施

5. 新エンゼルメイクの実施（平成19年4月30日～平成20年4月30日の1年間に亡くなられた患者様97名）

6. 新エンゼルメイク実施後の意識調査

分析方法：回収した調査用紙を項目毎に単純集計し、記述内容と共に比較・検討した。

倫理的配慮：意識調査は研究の主旨に同意を得られた方のみ自由回答とし、無記名で回収した。また、結果は研究以外には一切使用しないこととした。

## 結 果

意識調査用紙の回収率は、新エンゼルメイク実施前・実施後共に100%であった。

1. 新エンゼルメイク実施前意識調査より質問1、エンゼルメイクを行うにあたり心掛けていることは、「不自然にならないようにする」9名、「血色をよくし顔色をよくみせる」9名、「口を閉じるようにする」3名、「穏やかな表情にする」3名、「爪にも紅を塗る」1名。質問2、エンゼルメイクのやり方で困ったり悩んだりすることがある人は16名、ない人は9名であり、あると答えた人の理由として、「ファンデーションが肌に合わない」7名、「浮いてしまう」3名、「マニュアルが無い為自己流になる」3名、「粉っぽくなる」2名、「保湿が行えない」2名。質問3、エンゼルメイクを実施する場合、難しく感じた点、こうすればいいのと思った点は、「口紅・義歯が合わない等の口元の問題」8名、「ファンデーションと口紅の種類が少ない」6名、「不自然にならない工夫」3名、「本人用の化粧品があれば使用すればよい」2名、「黄疸がある人に

- 合うファンデーションがない」1名、「家族にも参加してもらおう」1名、「短時間ですのため雑になる」1名、「リキッドファンデーションがあればよい」1名、「T字剃刀で出血しやすい」1名であった。
2. 新エンゼルメイク実施後の意識調査では、質問1、新エンゼルメイクマニュアルは解りやすかったかについて、「はい」が22名、「いいえ」が0名。質問2、エンゼルメイクを行うにあたり心掛けていることは、「華美にならず穏やかな印象」11名、「自然な顔色になるように」11名、「家族にも参加してもらおう」1名、「顔のホットパックを数回行う」1名、「口腔内をよく拭く」1名、「口唇のかさつきを治しリップをぬる」1名、「首と顔色が極端に違わない」1名、「黄疽の強い場合やシミ・出血斑が強い場合は黄色系の補正クリームを用いることで一般的な肌色に整えられる」1名。質問3、エンゼルメイクのやり方で困ったり悩んだりすることがある人は17名、ない人は5名であり、あると答えた人の理由として、「黄疽の人へのファンデーションの色を忘れる」5名、「口が閉じず見栄えが悪い」3名、「黄疽用・赤み用と書いてあるとよい」2名、「口腔内や周囲の汚れが取れず、きれいにメイク出来ない」2名、「末期の水を行うと口紅が取れてしまう」2名、「口紅の色を迷う」2名、「男性の化粧の仕方や口紅が浮いてしまう」1名。質問4、エンゼルメイク時に工夫したこととして、「チークを入れる」3名、「シャンプーを行ったことにより髪の毛がフワットし、香りも漂い見違えるようになった」1名、「オキシドールで口腔ケアし、痰や血液を取り除く」1名、「女性の変色してしまった爪にマニキュアをしよう」1名、「死臭予防に入浴剤を使用」1名、「目尻にアイラインを入れる」1名。質問5、エンゼルメイクについて家族からの希望や感想があったかについて、「綺麗にしてもらえて嬉しい」8名、「眠ってるようだ」2名、「口が開かないようにしてほしい」1名、「指を組んでほしい」1名、「翌日も顔が綺麗だった」1名、「家族にも一緒に入るか聞き希望すれば一緒に入った」1名。質問6、難しく感じた点や気になった点などの意見として、「御家族がもっと参加できればよい・新しいメイクをする事により綺麗になったと思うことが多い・時間のない時にマニュアル通りに行うのが困難なため時間に余裕があればゆっくり出来た」が挙げられた。

## 考 察

新エンゼルメイク実施前の意識調査で看護師から挙げられた問題点を踏まえ、勉強会資料を作成した。エンゼルメイクの実際として、革皮様化現象や臭気対策、クレンジング・マッサージ方法などに加え、症状（るいそう・黄疽・出血など）に対する対応策を具体的に載せた。マニュアルには基本となるクレンジングからメイクの手順を中心に載せた。メイク道具の改善として、薬品の不要箱からメイクボックスへ変更し、中身も充実させ勉強会を実施した。そして新エンゼルメイクを1年間実施した後の意識調査の結果より、マニュアル作成と勉強会は有効だったと言える。

1年間、新たなエンゼルメイクを実施し、すべての患者様において実感出来たことは肌のしっとり感であ

る。私達自身はクレンジングなどの基礎化粧はしっかり行いメイクするのに、今まで患者様に行くという発想には至らなく、知らず知らずのうちに患者様に接する気持ちの上で、生と死を区別していたように思われる。以前は、地肌に直接パウダーファンデーションを使用しており、粉がふいたり化粧ムラが生じることが多かった。しかし、勉強会での学びを基に、クレンジング・マッサージ・蒸しタオルを行うことで穏やかな表情になり、汚れもとれた。また、乾燥が強い為、化粧水→乳液→クリームファンデーションを用いることで肌つやが良くなり、多くの家族から喜びの言葉が聞かれた。他にも、チークを入れて血色を良くしたり、目尻にアイラインを引くことで穏やかさを出したり、女性の変色してしまった爪にマニキュアを塗るなど看護師も次第と工夫をこらしている様子が伺えた。それは勉強会の実施で、看護師がメイクに対して自信を持ち、意識も高まっていった結果だと言える。全面的にメイク道具を見直し内容を充実させたことも一因である。

実施後の意識調査ではメイクのやり方で困ったり悩んだりすると答えた人は実施前の結果より11%も上回った。その理由としては、メイクに対しての事もあったが、物品の使いやすさや技術的な事が主であり、今後も改善に向けて取り組まなければならない。しかし、75%もの看護師から意見があった事は、エンゼルメイクに対する関心が深まり、今以上に患者と向き合いたいという看護師の意識の表れではないかと考える。

小林は、「死化粧は、医療行為による侵襲や病状により、失われた生前の面影を取り戻す為の造作を整える作業や補正なども含まれる。また、グリーンケアとしての意味合いも大きく、おしろいや口紅をさっと使用する一般の死化粧のイメージとはギャップがある。」<sup>1)</sup>と述べている。終末期患者様にもたらず変化に対し死後の容姿を整えるという意味でエンゼルメイクは、避けることのできない看護行為であり、患者様の生前の姿を偲ぶことができ、御家族の悲しみを癒す重要なケアと考える。そして、私たちに実践出来る最期のケアとしての重要性を実感出来たと共に看護師のモチベーションの向上につながったと言える。

## 結 語

1. エンゼルメイクの技術の見直しから全ての患者様において肌のしっとり感を実感できた。そして、様々な工夫をこらしている様子から、看護師がメイクに対して自信を持ち意欲も高まって行ったことより、ほとんどの看護師に知識が浸透出来たとと言える。
2. エンゼルメイクは、避けることの出来ない看護行為であり、御家族の悲しみを癒す重要なケアである。

## 文 献

1. 小林光恵. ケアとしての死化粧. 日本看護協会出版会; 東京; 2004; 24.

## 参 考 文 献

1. 小林光恵. グリーフケアとしてのエンゼルメイク (死化粧). ナーシングトゥデイ; 2004.
2. 小林光恵. ケアとしての死化粧. 日本看護協会出版会; 東京; 2004.
3. 名波まり子. エンゼルメイクーその実践がもたらした変化. ナースコール 2006; 6.

## 英 文 抄 録

### Original article

Change of nurse's consciousness after the technical improvement of our cosmetic handling of body, so-called "angel making technique" in Japanese funeral

Kariwagun General Hospital, 6th western ward; nurse Miyuki Mizushima, Minako Sugawara, Yukiko Tokuma, Ayumi Imanari

Purpose: Through surveys of attitude and study meetings on our cosmetic handling of body we developed the level of our nurse's technique and consciousness.

Method: The study of attitude toward cosmetic handling of body was done; on the basis of this survey we reviewed our cosmetic tools. The change of our consciousness was investigated after having carried out new method to 97 patients who died for one year.

Results and conclusion: It was very useful to improve the cosmetic box and prepare the new manual through the study meeting. We developed the make-up technique to get confidence up. Our new technique spread among most nurses. In addition, we are reminded of the importance of cosmetic handling of body to console survivors for their griefs.

Keyword: "Angel making technique", cosmetic handling of body in Japanese funeral, improvement of manual, "Grief care", console for one's grief, patients with cancer, patients in terminal phase

## 図1. 新エンゼルメイク法マニュアル (改訂版) 病棟勉強会資料より

### ☆エンゼルメイクとは☆

医療行為の侵襲や病状により失われた生前の面影を、可能な範囲で取り戻すための顔の造作を整える作業や保清を含んだ、ケアの一環としての死化粧。

また、グリーフケアの意味合いも併せ持つ行為であり、その人らしい容貌・装いに整えるケア全般のこと。

⇒家族とともに行う重要性

- ・家族は本人の化粧の仕方やこだわりを理解している。
- ・様々な話をしながら故人を振り返ることが出来る。
- ・故人に実際に触れることで、「亡くなった」ということを実感出来る。

### ☆エンゼルメイクの実際☆

#### ① 革皮様化現象

皮膚に赤い斑点が出来る現象であり、一旦出現するとファンデーションでのカバーは難しい。退院数時間後によく起き、原因の大半はエンゼルケアにおける髭剃りである。

<予防方法>

遺体は強く乾燥しており、傷みやすい為、表皮を削らないようにする。

- ・髭を剃る前は必ずクリームをつける。
- ・遺体の頭側に立ち、電気剃刀を上からそつとあてる。

#### ② 縛ることの悪影響

死後、重力に従い、水分や血液は下に下りていく。大抵の場合、横になっている為、背中側へ溜まっていく。しかし、縛ることその流れがせき止められ、凹んだ跡が消えなくなったり、大規模な変色を引き起こす。

<予防方法>

死後硬直には個人差があり、死の直前まで動いていた場合は強く、高齢者やベッド上の生活をしていた場合は弱く現れる。また、死後硬直がゆるくなる時間帯がある為、急いでケアを行ったり、無理に形作る必要はない。

③ 習俗の意味合い：手を組ませる、白い布を被せる、逆襟、たて結び、T字帯など

古来、死者は甦り、災いをもたらすと考えられていた。死者への恐れから死者を封印する為、手を縛ったり、白い布を被せたり、すべて逆さにして扱うという慣わしが出来た。また家族は、「すぐに遺体らしくしないで欲しい」「家に帰るのだから普通にしたい」など、慣わしに縛られなくなってきている。

<改善策>

習俗の意味合いがあることを説明し、家族の希望に沿ってケアを行う。

- ・手はお腹の上に普通にのせる。
- ・手を組ませる場合は、肘の下にタオルを入れ、無理強いはいしない。

④ 綿を詰めるということ

内容物流出の原因は筋肉の弛緩ではなく、腸内の腐敗によるガス内圧の上昇によるものである。また死者の再起を恐れ、封印する為の習俗の意味合いも含まれている。最近になり、当病院でも高分子吸収剤ゲルを用いるようになったが、綿を詰めることとの効果に大差はなく、かえって内容物が流出するとドロドロになり、家族への心理的ショックを与えるケースも少なくない。また紙オムツを使用しているが、動かした際にオムツが見えてしまうことがあり、ショックを受ける家族もいる。

<改善策>

- ・詰めても出てしまうときは出てしまう為、詰め物はしない。  
※但し、死直前まで飲食していた場合は除く。  
※割り箸は粘膜を傷つける為、詰める際は鉗子を用いる。
- ・胸・腹部の冷却を行い、腐敗を遅延させる。
- ・腐敗はリンパなどを伝わって進行する為、腋窩・鼠径部・頸部の冷却を行う。  
※葬儀屋さんにドライアイスをもってきてもらうと効果的？
- ・おしもは紙オムツ+パンツにし、羞恥心への配慮を行う。

⑤ 臭気対策

腐敗現象による問題には内容物流出よりも、むしろ「におい」が挙げられる。臭気は、雑菌の繁殖により腐敗現象が進むことにより発生する。口や眼からの臭気が大部分を占めており、中でも見落とされやすいのは眼球である。眼球は皮膚の何十倍も乾燥が早い。

<予防策>

- ・口、眼の中をよく拭く。



⑥ クレンジング・マッサージ蒸シタオル効果、簡易シャンプー効果

生前、蒸シタオルで顔拭き行うも、皮脂の詰まりは除去出来ない。皮膚機能の一部は死後4時間残存する為、クレンジング・マッサージ・蒸シタオルを行うことで、穏やかな表情になり、汚れもとれる。またシャンプーをすることで、髪の毛がフワツとし、印象も見違えるほど変化する。

※耳には毛細血管が多数あり、血色が良くなる為、耳もマッサージする。

⑦ エンゼルメイクについて

穏やかに眠っている表情づくりが基本。

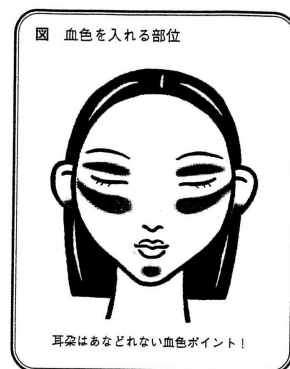
◇乾燥が強い為、化粧水→乳液→遺体用のクリームファンデーションを用いる。

※メイクアップしない場合は、油分を塗る。

◇チークは耳・顎・頬・頬の4箇所に入れる。頬のみ、少し強めに入れる。

◇アイライナー、マスカラを塗ることで、穏やかに眼を閉じている印象になる。

※目尻に少し上がり気味にアイラインを引く。



⑧ その他の対応策

◇閉眼しない

- ・アイプチを使用する。マッサージも効果的。

◇閉口しない

- ・枕を高くし、顎にタオルを挟む。  
※急激に頭部を高くすると、血液や水分の流れを妨げるので注意。
- ・市販の入れ歯安定剤を使用する。
- ★眼には抵抗があるが、口に関しては開いていても抵抗のない家族が多い為、家族の希望を確認することが大切。

◇るいそうへの対策

メイク（凹んでいる部分にベースの肌色より一段明るい肌色系を用いる）と含み綿の併用があるが、特にこめかみのるいそうを目立たなくすることは難しい。エンパーミンゲなど専門業者なら専用の液体をこめかみに注入出来る為、家族に紹介するのも良い。

- ★るいそうがある遺体の多くは、手がほっそりとしてきれいである。るいそうが強いつきは、視点を変えて、手のマッサージやマニキュアなどを施行し、その遺体を持つ美しい部分を際立たせることを心がける。

◇黄疸への対策

黄疸の肌は死後の時間経過（早い人では死後3時間）に応じて、「黄色→茶色→グレー系」へと変化する。特に眉、髪の毛の生え際、口の周囲は色に変化しやすい。

<メイク方法>

- ① 黄色系のクリームファンデーションをベースにし、肌色を全体に均一にする。
  - ② 肌色のクリームファンデーションを塗る。  
※白っぽい色は遺体の肌色の影響を受けやすく、グレーになってしまう為、ブラウン系の赤みのあるダークな傾向のファンデーションを選択する。
- ★家族には、自然現象として肌色に変化すること、それに合わせたメイクを行っていることを説明する。

◇シミ・出血斑への対策

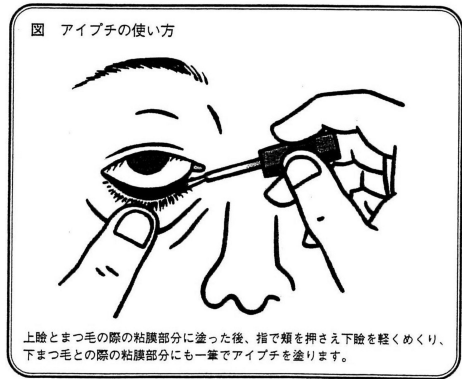
<メイク方法>

- ① シミや出血斑の部分には、黄色系のクリームファンデーションを塗り、地の肌に近づける。
- ② 地の肌色となるファンデーションは、通常よりも少しダークな色に血色を加え、シミや斑のある肌の色に少し近づけ、顔全体に塗る。

◇出血への対策

遺体から出血がある場合は、その部分に貯留している血液がなくなるまで少量ずつでも断続的に出血することが多く、一旦止血されたようであっても、遺体を動かすことで再び出血することがある。

- ・遺体や周囲の汚染を避ける為、出来るだけ早く保清・詰め物を行う。
- ・家族に出血の可能性とその対応の仕方（ビニール手袋の装着、ティッシュなどで拭き取る、皮膚をこすらない、使用した手袋は破棄する）を説明しておく。



～西6階病棟 緩和ケアグループ～

2009/11/22 受付 (2009-19)